

2024 年度:こども園自己評価の報告書 ゆたかこども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研究として環境づくりに取り組んだ。アドバイザー派遣研修などを受けて、職員の意識が変わり、子ども達の様子や活動に合わせて環境を変えるなどの工夫が見られた。また、環境を変えることで子ども達が遊びに集中する姿が見られるようになった。 ・常に子ども達の思いを大切にし、気持ちに寄り添った保育を行っている。行事に対する取り組みについてもクラス内で子ども達との話し合いを繰り返し行い、子ども達自身の思いを尊重するように意識して取り組みを進めた。子ども達の姿に合わせた保育を行うことで、子ども達の土台となる自己肯定感を育み、自分も相手も大切にできる気持ちを育んできた。日々の言葉かけやかかわりを丁寧に行い、安心して過ごす姿が見られるようになった。
健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ・豊中市こども園学校保健計画に基づいて生活のルール、身体、健康、性教育等の指導を行っている。保健指導を通して自分の体、友達の体を大切にすることを繰り返し伝えてきたことで、自分だけでなく周りの人の体を大切にしようとする姿が見られるようになった。 ・園生活の流れの見直しを行ったことで一日の間で体を動かす機会が増えて、気持ちを発散して、その後の活動に落ち着いて参加できる姿につながった。また、活動量が増えたことで空腹を感じしっかり給食を食べたり、午睡をしっかり行ったりするなど生活リズムが整い、健康につながっている。
安全指導・危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・園内の遊具・用具の使い方、保育室内や廊下、外での危険等、具体的に集団生活のルールを指導すると共に子ども達自身にも考える機会を設けるなど個別対応も行いながら工夫して取り組み、危機管理能力が身に着くようにした。災害について具体的に伝えることで、少しずつ子ども達の意識が変わってきた。 ・いろいろな災害を想定した避難訓練を実施する中で、訓練の反省や検討課題について職員間で回覧を行い、意識向上を図ることができた。次年度はさらに主体的に取り組めるよう内容の検討を行う。
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・クッキング計画書の作成を行ったことや食材発注のルールを明確にしたことでクッキング保育の実施など、昨年度より意欲的に行うことができた。来年度は見通しをもった年間計画を作成しより推進していくと共に、『育てる』ことの意識づけへの取り組みを進めていきたい。 ・温かいご飯の提供が始まり、子ども達の食への意欲につながった。また、各自のリクエストに応じて配膳することで、自分の適量がわかり、残さず食べるようになった。
子育て支援（在園児および地域）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援については年間計画を示し、計画的にクラス交流を実施したことで、各担任が主体的に交流を行った。地域交流の取り組みを通して未就園児はこども園を知り、在園児は小さな子どもと接する機会を得ることができている。参加された地域のお子さん、保護者の方にとっても有意義な時間となっていた。また、園庭開放利用者に職員から積極的に言葉かけを行うことで在園児とのかかわりも生まれた。
インクルーシブ教育保育	<ul style="list-style-type: none"> ・園児の日々の気づきや最適な支援の方法を職員間で共有し、職員により方向性や支援の方法が異ならないようにした。園全体で話をしたり取り組みを検討したりする工夫を今後は行っていきたい。 ・様々なルーツや個性を持った子どもが共に過ごし多様性を自然と受け入れられるように、その子らしく学び、楽しむことができる方法や手段、選択肢を考えながら人的・物的環境を整えてきた。その子なりの参加や居場所ができて、自分のペースで楽しむことができる場面を多くみることができるようになった。また、保護者と丁寧に連携することで子どもの成長を喜び合い、次につながるきっかけとなった。

<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育で『教育保育環境ガイドライン』を活用した保育環境のチェックや園内研究での『環境』についての学びから、人的・物的環境の両側面から観察を行い気づきを共有するなど質の向上に向けて取り組んだ。研修参加の機会を設けることで教育保育の在り方と向き合う機会になり、新たな情報や知識を得て今後の保育に活用することができている。 ・昨年度の課題であった教育保育内容の発信について、行事ごとのドキュメンテーション作成やその後のアンケートを活かした取り組み内容の検討が定着してきており、保護者の方からも「わかりやすい」と概ね好評をいただくことができた。今後も取り組みを継続し、内容の精査に努めていきたい。
<p>幼保こ小中の連携・接続</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区連絡協議会を通して子どもの姿を伝え合うことで互いの取り組みについて知り合う良い時間となっている。また、小学校就学に向けて、丁寧な引継ぎを行い、スムーズな移行につながるようにしている。 ・年度末には園児同士も交流を深めながら次年度に向けての期待感を感じられるよう近隣園との交流を行っている。
<p>評議員会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園の様子を理解していただけるよう日々の姿の写真を内容ごとに整理して観ていただいた。また、行事ごとに各クラスで作成しているドキュメンテーションの一部を見ていただくことで園のねらいや大事にしていることをどのように保護者に伝えているかについて説明を行った。個人情報保護の観点や職員の業務量との兼ね合いなどの課題についてもご意見をいただき、今後の取り組みにつなげていく。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園門前にフェンスを設置し、二重扉にして飛び出し防止に努めると共に園内からの死角が減り、子ども達がのびのびと遊べる環境となった。また、かんぬきの閉め忘れへの注意喚起なども行っている

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
<p>教育保育内容の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修で得たことを実践の中で活用しこどもが主体として活動できる環境づくりについての取り組みを進める。 ・今年度は意識的に交流する機会を増やしてきた。次年度は歳児ごとの育ちや活動を見据えて遊びだけでなく生活の場面での交流なども含めた年間計画を作成し、取り組みを進めていき、異年齢交流の充実を図る。
<p>職員の資質向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修での学びや子ども達の現状からみえる課題と取り組みについて、職員間でともに考え同じ目線で保育を行えるよう情報共有の仕方や会議の持ち方などの工夫を行い、職員の資質向上を図る。

令和7年（2025年）3月31日

豊中市立 ゆたかこども園

園長名 吉田 直美